

札幌ながかが経済人ネットワーク 「満20年」で192回の例会を重ねる

越智文雄あかりみらい社長が主宰する「札幌ながかができる経済人ネットワーク」が2006年6月の設立から「満20年」を迎える。文字通り、「地域のために何かをしたい」という熱い気持ちを持った有志が集まり、定期的に実施する講演会や勉強会は4月27日の例会で実に192回目を数える。節目の200回が見えてきた。

1は少しずつ増え、現在は道や札幌市などの地方自治体、国の機関、大学やシンクタンクのほか、銀行、メディアなどの有力企業の幹部、芸術家や建築家など多彩な顔ぶれだ。

生活、医療…と変化に富んでいる。「全盲のバイオリニスト 穴澤雄介さんコンサート」といったユニークな例会も交えているのも、メンバーに支持される要因の一つだ。

こそ。「いち民間人の勉強会で20年も、しかも200回近く定期的な例会を続けている例はおそらく他にない」と札幌市内の企業経営者は感心することしきりだ。

2006年のスタート時は北海道電力内に事務局を置いていた。釧路支店から札幌支店の地域経済担当部長に着任した越智氏を中心に、「地域の役に立つネットワークをつくらう」と立ち上げ、当初は会社組織のもとでの活動だった。

活動のメインは、講演会や勉強会、ディスカッションと情報交換。講師は、時々の開発局長や経産局長、日本銀行や政投銀の札幌支店長、陸上自衛隊北部方面総監、北海道大学総長のほか、企業経営者や文化人など。こちらも実に多彩だ。

時には一般の参加を広く呼び掛ける「オープン例会」も企画し、100人単位で集まることもある。最近では、著書『国民の違和感』9割正しい』が新書部門で7週連続1位となった国際ジャーナリストの堤未果氏の講演とパネルディスカッションの2部構成の特別例会を昨年2月に実施。経済センターの大会議室が満席となった。

4月27日の192回例会は、道内有力メディアのベテラン記者が「令和のオイルショック」について述べ、次いで6月26日にはオープン例会を企画。「ヒゲの隊長」の愛称で知られ、防衛大臣政務官を務めた前参議院議員の佐藤正久氏が「米イ停戦合意の行方と日本の進路(仮)」をテーマに語る。カナモトホール会議室(札幌市民ホール)を会場に13時~16時の予定。広く参加を呼び掛けている(先着150人)。

その後、起業した越智氏がそのまま引き継ぎ、あかりみらいに事務局を置いている。

テーマも政治・経済のタイムリーな話題からコロナ問題など社会的関心事、スポーツや文化、食

こうして回を重ねてきたのも、越智氏のマルチな行動力と人脈があつた

問い合わせはTEL 011-876-0820 (あかりみらい)



▲4月23日の例会でコーディネートする越智文雄氏

参加メンバ

そのまま引き継ぎ、あかりみらいに事務局を置いてい

6月オープン例会講師は「ヒゲの隊長」佐藤氏

問い合わせはTEL 011-876-0820 (あかりみらい)